

## 臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会(第24期・第6回)

### 議事要旨

1. 日時 令和2年6月29日(月) 14:00~16:00

2. 場所 遠隔会議

3. 出席者

委員:米倉義晴委員長、井上優介幹事、青木茂樹委員、秋葉澄伯委員、一ノ瀬正樹委員、稲葉俊哉委員、遠藤啓吾委員、神谷研二委員、中島聡美委員、安村誠司委員、山下俊一委員

4. 配付資料

資料1:臨床医学委員会「放射線防護・リスクマネジメント分科会」(第24期・第5回)議事要旨(案)

5. 議事概要

(1) 前回分科会議事要旨案の承認について

修正意見はなく、原案通り承認された。

(2) 自然放射線被ばくによる健康影響

秋葉委員から、自然放射線被ばくによる健康影響の疫学研究について紹介され、低線量被ばくについて議論された。テチャ川の研究では、食道癌、胃癌、子宮癌の増加が示されているが、化学物質の影響を考慮する必要がある。ケララ州の研究では、喫煙の影響を考慮すると放射線被ばくによる発がん増加は示されない。陽江では肝細胞癌の割合が高く、肝細胞癌を含めた場合と含めない場合で結果が大きく異なる。欧州における小児白血病の研究では放射線の影響が示唆されているとのことであった。この後、大きな母集団を長期間観察すれば統計的な検出力が上がる一方、交絡因子の扱いが難しくなること、医療放射線被ばくから低線量被ばくの影響を調査する場合にも交絡因子が問題になること、低線量被ばくの影響の実験研究には限界があることが議論された。

(3) 次期に向けた検討

井上幹事から、医療からの放射線の理解促進について提案された。医療法施行規則改正で診療用放射線の安全管理が義務付けられ、放射線診療を依頼する医師等の医療従事者が放射線研修を受けることになり、放射線診療前には患者に放射線被ばくについて説明することになった。医療従事者の放射線教育や患者と医療従事者との対話を充実させることで国民の放射線についての理解の促進を図るという提案であった。具現化の方策、

医療被ばく管理や核医学治療との関連について意見があり、本提案を提言としてまとめる方向で検討することになった。

(4) その他

米倉委員長より、議論をさらに深めて次期以降につなげるため、今期中にもう一度分科会を遠隔会議の形で開催することが提案され、合意した。

以上